

第7回津山市総合計画審議会 議事要旨

平成27年8月6日(木) 10:00～

津山市役所2階 大会議室

1. 開 会

2. 市民憲章唱和

3. 報 告 事 項

(1) 津山市まちづくり調査結果報告について

(2) 津山満足量調査結果報告について

(事務局) ○津山市まちづくり調査結果および津山市満足量調査結果の説明

(委員) 属性について、まちづくり調査結果は回収率32.4%ということで、影響しているのかもしれないが、国勢調査などでは、一人暮らしと夫婦のみ世帯で5割を少し超えるくらいと理解しているが、今回のアンケートに回答した人の属性で見ると、32%程度しか出ていない。これはどう理解すればいいのか。

○送付はしたが、ここは非常に返却率が悪いのか、実際には、一人暮らしと夫婦のみが5割くらいであって、ここの声を吸い取らなければならないのが、10%以上乖離しているのは、どう理解すればいいのか、教えていただきたい。

(事務局) 国勢調査などこういう調査で、人口構成がぴったり合わないところが出てくるのは、分析を行う中で、勘案している。

○なぜ返却していただけなかったのか、というところまでの分析はできていないが、8ページをご覧いただくと、18歳以上の子どもいる方が65.5%と非常に高い数字が出ている。こういったことは、属性でいくと、40代以上の方が7割5分という中で出てきており、今回は集計結果をそのまま出しているが、そういったことは勘案した上で、先ほどいただいたご意見を踏まえて、分析させていただ

ている。

(委員) ということは、津山の標準世帯というのは、今は一人世帯が最大世帯なので、そういった方々のご意見をよく反映していかなければならないと思うが、それは今後勘案していく、と考えたらいいのか。

(事務局) そういった世帯構成についても、一人暮らしが82人とか、共同生活が36名という中で、クロス分析はできるのだが、それをそのまま傾向としてとらえるのは、統計学的に若干無理があるが、先ほどいただいた意見も踏まえて、そういった属性とのクロスも含めて、考察を加えた上で、それぞれの施策、計画に反映してまいりたい。

(会長) できる範囲でも、クロス分析をしていただき、大きな傾向に差があるかだけは見ておいていただきたい。

(委員) 詳細な調査をされているが、満足度と重要度の相関図は、非常に重要な意味を持つと思う。これを今度の総合計画においてどのように読み取っていけばいいとお考えなのか。調査の目的と関わることで、その辺の視点をどのようにとらえて、どのように結論づけられるのか。

説明が色々あって、広範囲にわたったので、端的に言ってどうなのか、ということをお聞きしたい。

(事務局) これから施策を大綱ごとに作っていくが、基本計画を策定し、それぞれの主要事業を掲載する実施計画も策定する。それを作る中で、重要であるけれども満足度が低いものを重視しながら、これからの施策作り、基本計画、実施計画の中に、そういった視点を持って、事業選択、施策の選択をしていきたいと考えている。そういったベースになるようなものにしていきたいと考えている。

(委員) 重要度が高い、要するに、津山に住んでいる者として、今後の計画において、重要なものが、全体的に外せない、ここの充実、仮に満足していたとしても、満足度が高いものもあるが、例えば幼児教育、妊娠出産、乳幼児保健、義務教育、子育て支援、医療、こういった生活に関わる、支えている部分、この辺は重要度がかなり突出して右側に寄っているということで、この重要度、それから、高齢者福祉、ちょっと左側にあるが、この辺りや、教育環境、生活環境、こ

ういったものが、市民が重要だと感じているもの。ここに対する満足度は決して低くないが、これをどうとらえるかだが、満足しているからいいという話なのか、今後も重視して、ここを中心に置きながら、今後10年の政策を作っていくのか、というところが重要だと思うが、私はそう思うが、同じなのか。

(事務局) おっしゃるように、重要なものについて、強みは伸ばしていきたい、弱みは補完していきたい、そのような方向で、これを参考にしながら、今後の取り組みをしていきたいと思っている。

(会長) しっかり読み込んで、これをどう施策に落とし込んでいくか、ということは非常に重要だろうと思う。

気になるのが、観光が非常に低い。重要度も低いし、満足度も低い。要は無視されているということ。

インバウンドが、つまり海外からのお客様の方が、日本から海外に出るお客様より増えていて、フランス並みの年間8000万になるかどうかは別にしても、多分、2000万から4000万くらいにはなっていく。観光は非常に重要な産業の一つだと思うので、観光協会は、もっと市民に、その重要性をPRしていただかなくてはならない。

(委員) 観光の低さと市街地活性化の低さが気になっている。

観光立市宣言を2年前にさせていただき、一つの方向性としては、津山市が大事にしていかなければならないという指針を定めていただいているので、がんばってまいりたい。

(委員) 今後の10年、医師会との連携は不可欠なので、ぜひ医師会の方のご出席をお願いできるように、考えてあげてほしい。色々な面で、高齢者福祉、子育て支援にしても、医師会との連携が重要になってくるので、その点、よろしく願いしたい。

(委員) 回収率32.4%で、サンプルとして成り立つのか。

世代で見ると、20代、30代の回答が非常に少ない。これはなぜか、などの分析など行われていたら教えていただきたい。

(事務局) 統計学的にこの数字がどうなのかということについて、ご説明できていなかった。2ページに標本誤差を載せている。統計学的に難し

い数式の計算をさせていただいているのだが、95%の信頼度を獲得するために、こういう数字を入れるというところ。注のところに、 $N - 1$ 分の $N - n$ はほぼ1に近いというところがある。Nが津山市の20歳以上の人口全員となり、そこから1を引いたものを分母としたものを、その母集団から回答者数を引いたもの、これを計算したものが、これが900であっても1000であっても、ほぼ1になる。今回の973という数字は、統計学的には、問題ない数字というところ。

他都市で色々と調べさせていただいたが、回収率がだいたい35とか6、多いところで40というところがあるが、だいたい1200とか1000にちょっと足りないというようなところが多いというところで、我々としては、この数字というのは、根拠があるというか、使える数字と思っている。

先ほどの計算式の下にあるが、設問の回答者数が973名であって、設問の選択肢の回答率が90%だった場合、誤差がプラスマイナス1.92%というのが、統計学的にはじき出される数字であり、だいたい今回、お答えを、無回答以外の皆様を入れると、90%を超えるので、だいたい誤差がプラスマイナス1.92%の範囲に入るといったことも含めて、今回の調査は有効であるという判断をさせていただいている。

お若い方は課題だととらえている。前回も、若い方の意見をどうやって聞くのか、ということもあった。総合戦略を、今、立てているが、その中で、高校生、大学生のアンケート調査も行っている。こちらで人数が足りない部分については、そちらのアンケート調査の方も補完として加えて勘案しながら施策の方を検討してまいりたい。

(委員) 高校生、大学生のアンケートを、今後、取るということか。

(事務局) ○取っている。

(委員) ○今後10年間ということであれば、恐らく、高校生以上の方が成人される年になってくるので、その部分の意見が最も重要ではないかと思われるので、次回くらいに、そのアンケートの結果を教えて

もらえるのか。

(事務局) お示しさせていただく。

(委員) 内容的には、今回のアンケートとは、違う内容がいつているのか。

(事務局) 別の切り口での問いかけもしているのですが、全く同じことをお聞きできていないが、雇用のことや、ご自身の就職や進学をどうしたらいいのか、どういう風に生活を考えているのか、そういったことになっている。

(委員) 勘案していただくということなので、それでいいのだが、意見としてお伝えしておきたいのが、例えば子育てのところで言うと、先ほども説明があったが、高校生以上のところであったり、義務教育に対して、未就学のところを足すと、8割以上のご家庭が、お子さんが義務教育から手を離れている、接点がない、という中で、強みの部分で、義務教育が上がっており、設問の項目を見れば、次代を担うこどものために、ということで、実態は、教育委員会の各28ブロックの中で、この津山は、最低の点を出してしまった。下がいないというような状況。決して義務教育や次代を担うための学力が充実しているというようなことではない。その中で、きちっと読み取ってもらって、義務教育はどうなのか。

○同じような質問の中においても、妊娠出産であったり、子育て支援であったり、ギャップがあると思う。強みには入っているが。ぜひ他都市との比較もしっかりしてもらって、検討を、まとめてまた報告されるということだが、しっかりと実状を把握してもらいたい。義務教育の子どもがいないところにアンケートをして、義務教育が充実しているという答えが出ているので、非常にギャップがあるだろう。

(会長) 大変貴重なご指摘だと思う。教育については、本当にレベルを上げていかなければならないのだと思うが、調査結果とは合致しないということがあるかもしれない。

できれば若手の人のクロス分析をしていただき、差があるかどうかを見ておいていただいたらと思う。

(委員) 合併した周辺の回答率が非常に悪い。合併10年、本当に全市一体

になった政策が進められているのか、疑問に思ったところがある。回答結果が少ないというのも、その辺が何か作用しているのではないかという気がする。第4次の総合計画の時も、周辺を踏まえた色々な施策がとられていたと思うが、これから5次に向かって、一体的な何かを考えていかなければならないのではないか。

(事務局) 合併後の一体感ということ意識して、5次総に向かっても、そういった視点で策定していきたい。

先ほどの補足になるが、若い方々からのご意見を聴取するアンケートだが、地域総合戦略推進会議の関係で、高校生、大学生、高専の学生さんに対して、進学・就職に関するアンケートを行っている。その取りまとめを、午後からの会議で公表することになっており、審議会の皆様には、次回の審議会の場で、取りまとめの報告をさせていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(委員) まんぞく通信簿の方だが、子どもの数を聞いているが、いないがかなりいるが、独身の方がかなり含まれているのではないかと。すると、この結果の数は、ちょっと微妙な感じになるのかな、と。結婚されていないのに、子どもがおられる方もいるが、そうでない方の数も入っているので、数字的にどうなのか。

その他の集計だが、無回答・無効回答がどの質問に対してもかなりあるが、単に書いていないだけなのか、なかなか書けない理由がある、もしくはちょっと答えにくいという風なことが皆さん思われているのか、そのようなところの把握もされているのか。

(事務局) ご指摘があったのは、まちづくり調査の8ページ、子どもがいないという方が298人おられるところだと思う。

8ページと9ページは質問がリンクしており、子どもがいないという方は、その次の質問には答えていただけていないので、子どもがいない方で、先ほどご指摘のところは、無効回答的なものにならないような配慮はさせていただいている。

無回答・無効回答というのは、空欄で回答いただいているということで、今回の調査は、 をしていただくという風なことなので、記述がなかったとご判断いただければと思う。

4. 協議事項

(1) 津山市第5次総合計画基本構想(案)について

基本構想(答申案)について

(事務局) ○津山市第5次総合計画基本構想(案)の追加事項について説明

(会長) 松田委員のご指摘で、津山のまちづくり、市民の生活について、質というものをどう考えていくのか、というところで、「魅力を加えるとともに、活力と住みやすさを感じられる」という表現を入れた。鈴木委員のご指摘で、津山市をよくするためには、市民との協働を中心に置いていかなければならないということで、「だれもが役割を持つ」という表現に変えさせていただいている。

(委員) 4ページの「圏域の一体的な発展のために」の項に、「定住自立圏」があるが、これは総務省が進めるところの、定住自立圏都市の、要は、人口5万人以上の都市でないと、地域連携に手を上げられないと。それと同じ文言が使われているということは、定住自立圏に対して、手を上げていこうという理解でいいのか。

(事務局) その通りである。

(会長) 開花ということで、ある意味で非常に津山らしい表現となり、皆様方のご意見を踏まえて、こういう形で出来上がったことに、心から御礼を申し上げます。

(委員) 開花プログラムの中にも、子どもが健やかに育つために、という言葉もあるが、私たちは、乳幼児から高齢者まで全ての住民にとって、明るく住みよい地域にするために、ということで、行政と協力しながら、行政との委託契約の中で活動している団体である。田村委員から出たように、いいように満遍に、私たちの団体は42支部になっているが、編入で入られた団体も、同じ様に前進できるように、最初から計画を立ててやっている。行政がこうやらなければならないということについては、どこも同じ様な形で、前進できている団体である。今後、何をどうしていくか、ということについては、自分で旗揚げするというのではなく、少々行政の方から、こうしたら

いいのだというお話があれば、1000人余りの人数で、自分達で進んでいくことができるので、お願いしておきたいが、子育て支援ということで、私たちの母体は、しっかりとした母体で、60周年記念をしたような母体であり、県から活動も動いていると思うので、そのような形の中で、利用していただきたいと思う。

- (会 長) 大変心強い。ぜひ津山市と協働で作り上げていっていただきたい。これで基本構想(答申案)の審議を終了させていただく。皆様のご審議をいただき、決定していただいた構想(答申案)については、8月10日に、私と村木副会長より市長に答申させていただきたい。
- なお、基本構想案については、9月の議会の議決を経て決定となる。議決後に基本計画審議のための会議を開催したい。

- (事務局) 津山市第5次総合計画基本構想案の答申書(表書き)を説明。

- (委 員) 答申案についてはこれでいいが、10ヶ年計画ということでの答申なのでこれでいいが、30年、50年先を見据えたことも、大きな見通しを持っていかなければならないのではないかと。

○10年経ったらまた、ということにはならないので、うまくつなげるようにならないか。

表現として入れるのはどうかとも思うが、思いは、そのようにやっていただければと思う。

- (会 長) 継続性を大切にせよ、長期的展望で、ということだと思う。

- (委 員) 議会の審議を受けるということだが、観光振興議員連盟は、議員が全員入っている。そこで観光立市宣言を一昨年やっていただいている。その市議会に諮る時に、項目的にはないことはないが、大見出しの中に「観光」という言葉が入っているといたないとは、議会の方も、全員で決議した文言が、見出しに出てこないというのは、非常にさびしいと思われるのではないかと。長くないスローガンを置いているのはよく分かるが。

- (事務局) 「魅力発信できるまちになるために」の中に、「観光資源」「観光産業」という表現は入れているが、委員言われたように、命題のところの方がインパクトは強いのだが、中に包含させてもらっていると

いうことで、議会にも説明していきたいと考えている。

(会 長) 以上、これでよろしいか。

<全会一致で原案どおり承認>

(2) 基本計画の審議について

分科会構成と日程の案について

(事務局) ○分科会構成の案について説明

(会 長) 人数が少し偏っているとか、第1分科会に女性が全員入っていて、その他の分科会に女性が全く入っていないというのは、ダイバーシティを考えなければならない時代に逆行しているかもしれないが、一応、審議していただく内容で、委員を選ばせていただいた。

基本的な進め方については、分科会で2回の議論を予定している。

1回目はできるだけ自由に色々なご発言をしていただいたものを、事務局に取りまとめていただき、それを2回目に審議して、最終的に提出していただくという風に進めていきたいと考えている。

(委 員) 第2分科会の、豊かな自然環境の保全と快適にくらせるまちづくりが専門である。大学が教育機関だからということで、第1分科会に入れていただいているのだと思うが、どちらがいいだろうか。

(事務局) では、第2分科会に入っていただきたい。

(事務局) 分科会の日程の案について説明

(会 長) ご多忙な中、長期間にわたり、お時間をいただくことに大変恐縮しているが、ぜひご協力を賜ればと思う。

5. そ の 他

(1) 今後のスケジュールについて

基本構想案答申 平成27年8月10日(月)10時～ 本庁2階庁議室

(事務局) ○今後のスケジュールについて説明

6. 閉 会